

国際日本研究センター 海外大学・機関 調査表

訪問先	メルボルン大学
調査日時	2016 年 7 月 26 日 12:00-13:00, 15:00-16:00
調査対象機関・個人名	メルボルン大学・アジアインスティテュート 中根育子准教授・豊田悦子講師
訪問目的	メルボルン大学での日本研究の調査
調査方法	項目に従ったインタビュー
調査結果	【機関の性格】 アジア・インスティテュートでは学部と大学院に日本語・日本研究プログラムがある。大学院の修士 (MA) はコースワークなし。また、論文博士 (Ph.D) がある。 【日本にかかわるコース概要・開講科目について】 必修科目 : Japanese Grammar in Action、Variation in Japanese Language、Japanese through the Media、reading Japanese Literature、Contemporary Japan、Japanese through the Media、Japanese Through Translation、Japanese Through the Media、Social Problems in Japan 【上記のコースの運営・科目開講にかかる問題・努力】 初級は中国系の学生が多く、非中国系と学力の差が出る。授業は大人数クラス。日本語を専攻する学生と、日本語に興味がある他の専攻の学生が同じクラスにいるため、モチベーションにバラつきがある。 【上記のコース・科目にかかわる教員について】 日本人教員は 6 名 (専門 : 国際関係、言語学、日本語教育、社会言語学、ジェンダー、移民政策、市民社会) 【上記のコース・科目を履修した卒業生の進路について】 メルボルンの就職状況は悪い。卒業生には、日本で就職する学生もいる。 【まとめ】 Global Japan Office の設立に向けてまた話し合いができればよい。また、外大からの留学生にメルボルン大学での日本語プログラムの授業 (相互文化理解など) へ参加してもらえるとよい。  中根育子先生とメルボルン大学にて

調査担当者 : 大谷直輝

訪問先	モナシュ大学
調査日時	2016 年 7 月 27 日 13:00-14:00
調査対象機関・個人名	モナシュ大学 Robyn Spence Brown 教授
訪問目的	モナシュ大学での日本研究の調査
調査方法	項目に従ったインタビュー
調査結果	【機関の性格】 学部と大学院に日本語・日本研究プログラムがある。大学院の修士(MA)は応用言語学と翻訳研究、博士(Ph.D)は言語学・応用言語学のコース。コースワークも必要。 修士の学生はおおよそ 20-40 名、博士の学生が 10-20 名程度在籍 【日本にかかわるコース概要・開講科目について】 4 つのレベル(Introductory, Intermediate, Proficient, Advanced)のクラスを開講している。Advanced レベルのクラスでは、日本語を用いて科目を教えている。日本語を受講する学生は、一年あたり 800-1000 名。 【上記のコースの運営・科目開講にかかる問題・努力】 新入生の 8 割が中国系の学生である。プログラムに留学が組み込まれており、留学が奨励される。 【上記のコース・科目にかかわる教員について】 日本語ネイティブの教員は 3 名。また、日本関連の授業の担当者の専門分野は人文科学と社会科学。(言語学、応用言語学、会話分析、歴史、アジア研究、日本文学、日本文化) 【上記のコース・科目を履修した卒業生の進路について】 卒業後に来日する学生も多い。 【まとめ】 日本国内に次の提携校がある。提携校：千葉大学、一橋大学、明治学院大学、名古屋大学、お茶の水大学、大阪大学、立教大学、埼玉大学、成蹊大学、東京大学、筑波大学、早稲田大学  Robyn Spence brown 先生とモナシュ大学にて

国際日本研究センター 海外大学・機関 調査表

訪問先	ラトローブ大学
調査日時	2016 年 7 月 28 日 12:00-13:00
調査対象機関・個人名	ラトローブ大学 言語・言語学部 岡野かおり先生
訪問目的	ラトローブ大学での日本研究の調査
調査方法	項目に従ったインタビュー
調査結果	【機関の性格】 School of Humanities and Social Science の中に、日本語専攻に関する学部と大学院がある。 【日本にかかわるコース概要・開講科目について】 日本語は講義、会話、購読、読解のクラスがある。また、Making of Modern Asia や Contemporary Issues in Asia のようなコンテンツ重視のクラスもある。（語学のクラスの定員は 25 名） 【上記のコースの運営・科目開講にかかる問題・努力】 スタッフは少ないが学生数は安定している。 【上記のコース・科目にかかわる教員について】 日本人教員は 2 名（専門：社会学、政治学） 【上記のコース・科目を履修した卒業生の進路について】 日本に行く学生が多い。日本語を専攻した卒業生約 30 名の大半が日本に行き、就職の前に、ワーキングホリデー、JET PROGRAM, AET など海外経験を積む。 また、これまでに Japan Studies では 4-5 名の Ph.D を授与。 【まとめ】 日本国内に 11 校の提携校がある。11 校（上智大学、国際教養大学、立命館アジア太平洋大学、京都橘大学、熊本学園大学、創価大学、立教大学、広島大学、佐賀大学など）  岡野かおり先生とラトローブ大学にて

調査担当者： 大谷直輝